## 2020年度日本地すべり学会賞受賞者紹介

【技術報告賞】 西井稜子 氏 (新潟大学災害・復興科学研究所,正会員) ●受賞技術報告:複数時期の航空レーザ測量データを用いた変動斜 面末端部とすべり面発達の推定,第56巻2号, pp. 87-94.

●著者:西井稜子,石井靖雄,佐藤匠,本間信一

## ●受賞理由:

本技術報告は、複数時期の航空レーザ測量データを用いて斜面変動を把握する手法を富士川水系早川源流部に位置するアレ沢崩壊地に適用し、変動斜面末端部とすべり面の発達状況を推定しています。現在、2時期の標高の差分値を算出する方法(標高差分法)がよく用いられていますが、発生域と停止域が重複する地すべりや崩壊においては、標高低下域・上昇域が発生域・停止域と必ずしも一致しないという欠点がありました。本技術報告では、頭部の変動範囲と変動状況は明確であるものの、末端部が不明瞭な変動斜面を対象に、標高差分法とParticle Imaging Velocimetry (PIV)解析法を合わせて解析しています。これら2つの解析結果を比較検討することで、変動斜面の末端部を推定し、さらに、変動斜面における変位速度の時空間変化に基づき、すべり面の発達状況の識別可能性を示唆しています。

解析は、2つの手法の長所・短所に留意し、種々の誤差も考慮した上で、慎重かつ丁寧に進められています。標高差分法とPIV解析法の図を重ね合わせて検討すること、場合によっては2つの手法に加えてオルソ画像や地形データ(等高線・傾斜量)と併用することの有効性も指摘しています。

本技術報告の手法は、国内外の類似した変動斜面への適用も可能であり、計測時期の異なる航空レーザ測量データの整備とともに有効な変動斜面の解析手法となることが期待されます。学術的にも技術的にも有意義な知見及び発展性を有しており、よって本技術報告を技術報告賞に相応しいと評価いたしました。

## ● 略 歴 ●

2010年 筑波大学大学院生命環境科学研究科

一貫制博士課程修了

同年 筑波大学井川演習林

2014年 独立行政法人

(現・国立研究開発法人) 土木研究所

2017年 新潟大学

現在に至る 博士 (理学)



【查読者賞】山崎孝成 氏(国土防災技術株式会社,正会員)

●受賞理由:

山崎孝成氏は、地すべり研究の本質とも言える「すべり面」の力 学・物性・構造・形成機構を専門分野としつつも斜面災害全般にわ たる広範な見識と、現地調査・計測、観測、対策技術に関する十分 な経験と実績を有しておられます。日本地すべり学会誌をはじめと する学術誌において,数多くの調査・研究成果を発表しておられま すので、山崎氏のご活躍は多くの会員の知るところかと存じます。 日本地すべり学会誌の編集においては、調査・研究成果の発表のみ ならず、長期にわたって査読者としても貢献をされております。と くに地すべり調査、すべり面の認定・力学特性等に主眼をおく投稿 原稿については、多様な調査・解析手法にご対応いただけますので、 多数の原稿の査読を引き受けていただきました。査読にあたっては、 研究の創造性・独創性、論理性について的確に評価していただき, 有益な修正意見によって内容が大幅に改善し, 価値を高められた原 稿も少なくありません。査読期間を厳守することで、著者と編集委 員からの信頼も厚く、学会誌の質と信頼性双方の向上に大きく貢献 されています。学会誌編集への献身的なご協力に敬意を表すととも に、査読に対する公平かつ厳正な姿勢は査読者賞に相応しいと評価 いたしました。

## ● 略 歴

1976年3月 東北大学理学部地学科卒

1976年4月 国土防災技術(株)入社

1996年4月 同社福島支店長

2000年9月 佐賀大学博士(理学)

2002年4月 静岡大学非常勤講師

(現在に至る)

2006年9月 同社取締役技術本部長

2011年12月 同社常務取締役~相談役

2015年12月 同社技術顧問 (現在に至る)

2019年4月 帝京平成大学客員教授兼任 技術士(応用理学・総合技術監理)

